

令和6年度 事業計画

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

1) JCI-TC221A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会

(令和4-6年度)

セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的として、セメント、骨材等のコンクリート構成材料、コンクリートおよびコンクリート構造物等に関するインベントリデータを整備し、環境影響評価のモデルケースを構築する活動を前年度まで実施した。令和6年度は、前年度までの活動成果を報告書として取りまとめ、さらに報告会を開催してその活動成果を一般に広く提供することにより、包括的なセメント・コンクリートの環境影響評価の推進を図る。これによって、委員会活動を総括する。

2) JCI-TC222A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会

(令和4-6年度)

水がコンクリート中の鉄筋の腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的として、2年間に渡りWGでの議論、現地調査、基礎実験などを行ってきた。令和6年度は、これまでの活動で得られた成果を報告書として取りまとめ、報告会を開催する。

3) JCI-TC231A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会

(令和5-6年度)

石灰石微粉末をコンクリート分野においてカーボンニュートラル材料としても積極的に活用していくために、その現況と、効果や課題を取りまとめ、実用に資する資料を提示することを目的として、3つの分科会において以下のような活動を行う。①石灰石微粉末を活用したコンクリートの実績等について、コンクリート製造分野における配(調)合の種類等の特徴や出荷実績の詳細なヒアリング調査を行い、実状を明らかにするとともに、各種基準類における記載内容の文献を調査する。②セメント製造分野等において、石灰性微粉末の環境負荷低減効果、海外・国内のセメント規格における石灰石微粉末の位置付け、人工炭酸カルシウムの開発事例等を調査し、今後の展望を検討する。③石灰石微粉末の製造・流通の状況、利用する段階での管理方法の実状と

課題をヒアリング等で調査するとともに、コンクリート製品の表面美観の改善効果に関する実験等も併せて石灰石微粉末利用の効果を明らかにする。また、材料の規格化の方向性を検討する。

4) JCI-TC232A コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会 (令和 5-6 年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。具体的には、JCI ならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法等を議論し、データを一元的に集約するとともに、これらのデータを AI・機械学習に活用し、コンクリート構造物の構造性能や材料挙動等に関する予測の回帰式等、具体的なモデルの構築手順を提示する。

5) JCI-TC233A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会 (令和 5-6 年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、その改善方策の提案、および実現のためのロードマップならびにコンクリート構造の研究コミュニティが取り組むべき研究課題を抽出し、報告書に取りまとめることを目標としている。令和 6 年 6 月に、本委員会と ACI 374 が協力して令和 5 年度から実施してきた共通建物の試設計の結果について、互いに報告し討論するための日米ワークショップを開催し、日米の実務における非線形時刻歴応答解析の用いられ方の共通点や相違点についてお互いに理解を深める。さらに、令和 6 年度末までに、それらの設計に適用した日米のガイドラインの適用範囲、コンクリート部材や要素のモデル化、設計クライテリア、信頼性、利用上のルール・留意事項などについての比較に関する資料の作成と、日米の設計例の違いについての考察を行い、コンクリート構造の研究コミュニティが今後取り組むべき研究課題を抽出し、報告書に取りまとめる作業を行う。

6) JCI-TC234A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和 5-6 年度)

現行の定期点検要領との接続を意識しつつ、また「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会 (JCI-TC112A)」で問題提起された内容を踏襲すべく、既存実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法を提示することを目的とする。令和 6 年度は、報告書の取りまとめと、構造性能の観点に立脚した診断対象領域の選定、非破壊検査手法の選定から検査結果の評価およびその時間軸空間予測に至る一連の内容や手順を取り纏めたマニュアルの作成を、実務レベルの視点から実施する。

7) JCI-TC241A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会 (令和 6-7 年度)

自己治癒材（無機系、有機系、微生物系、埋設パイプ、カプセル型等）の効果発現に対する環境影響の評価および効果が持続するための環境条件について知見を整理し、コンク

リート内部環境の評価指標を抽出する。また、自己治癒材の効果発現機構と適用環境を考慮した新奇な材料開発に関する知見整理と実験的検討を共通試験として実施する。特に、効果発現・持続性の異なる種々の自己治癒材を用いて製作した供試体を対象として共通試験を実施し、評価対象とする物理量・環境指標を計測して、時間軸を加味した間接的/直接的評価方法の再現性、精度について検討する。

8) JCI-TC242A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会

(令和6-7年度)

数百 MHz～数百 THz の周波数帯の電磁波に関して、従来の鉄筋探査等への適用だけでなく、コンクリート内部や損傷状況の可視化、塩分・水分等の劣化因子の把握、鉄筋腐食状況の評価等のコンクリート分野への高度利用に対する技術の調査、普及のための検討を行う。コンクリート分野だけでなく、関連する分野の研究開発動向、適用事例等について幅広い調査を行い、技術の現状として取りまとめる。また、これらの新しい技術に関して、各種技術の適用性に関する横断的な評価実験、本学会刊行物「コンクリート診断技術」への技術情報の提供等を行い、技術の普及に寄与することを目的とする。

9) JCI-TC243A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会

(令和6-7年度)

鉄筋コンクリート構造物において、現行の5年毎の橋梁点検で実施される外観目視点検および打音検査によって評価できるのは、鉄筋腐食が既に進行したために発生したコンクリートの変状の状況であり、そこから採れる対策は事後保全的な維持管理となることが多い。維持管理手法を事後保全型から予防保全型へと移行させるためには、一見健全な状態に見える段階での鉄筋腐食を精度よく評価するための点検手法の確立が急務である。そこで、①中性化深さの評価方法、②塩化物イオン濃度の評価方法、③鉄筋腐食度の評価方法をそれぞれ検討するWG活動を通じて、中性化および塩害を対象とした鉄筋コンクリート構造物の予防保全を目的とした点検方法について調査し、これらの点検方法を確立することを目標とする。

10) JCI-TC244A 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会

(令和6-7年度)

2011年東北地方太平洋沖地震以降、研究者レベルで行ってきた津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造構造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる研究や実設計の事例等を文献収集するとともに、津波作用時に地震力とは異なる鉄筋コンクリート造柱やはりなど耐圧部材の波圧による損傷、漂流物衝突荷重や堰止め荷重、2方向外力の影響、基礎地盤の洗堀、津波荷重に対する既存建築物の部材補強、免震構造における設計上の留意点、粘り強い防潮堤の設計方法等を取りまとめる。また、必要に応じて縮小模型を用いた水圧実験や漂流物衝突などの実験の実施、あるいは自治体における津波防護施設・避難施設の設計方法・建設方法に関するヒアリング調査等を実施し、設計における適切な評価方法について検討する。

11) JCI-TC245F コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関するFS委員会

(令和6年度FS)

鉄筋コンクリート系の土木・建築構造物は、大規模地震に際して倒壊・崩壊に至る場合がある。構造物単体の性能だけでなく様々な要因が考えられるが、解析的にその挙動を予測・評価する手法は確立されるに至っていない。本F Sでは、崩壊挙動に関する研究動向とともに、これらを対象とした予測・評価技術に関して、非線形FEM解析をはじめとした詳細解析から大規模モデルまでのさまざまな解析技術の現状や研究動向を調査する。本F Sを踏まえて、崩壊挙動の予測・評価に対する有用性や活用可能性を考察し、さらなる調査研究活動への展開につなげる。

(2) 技術委員会所管の委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的としている。令和6年度は、準備WGで鉄筋工についての調査報告会を行い、運搬WGでコンクリートの運搬についての調査報告書を作成する。

2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

前年度までの7か年にわたる活動に引き続き、共通試験WGおよびモニタリングWGにて活動を行う。共通試験WGでは、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施した上で暴露させた鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリングWGでは、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物（30号棟）を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行うとともに、新たにモニタリングを実施する建築物の選定を行う。併せて、これまでの委員会の活動成果を広く一般に紹介するための報告会（ハイブリッド形式）を開催する。

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針」改訂版の2025年刊行を目指しており、令和6年度はこれまでの指針の構成を大きく変更し、指針改訂原案を「本編」、「温度ひび割れ制御編」および「DEFひび割れ防止編」の三編構成とするとともに、それぞれの編の作成および取りまとめを行い、改訂原案を完成させ、規準・指針管理委員会および理事会に諮る。

(3) 支部研究委員会（確定している委員会のみ記載）

- 1) （北海道支部）寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会（令和3-6年度）
- 2) （北海道支部）時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会（令和4-6年度）
- 3) （北海道支部）将来構想検討委員会（令和5-7年度）
- 4) （東北支部）東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会（第Ⅱ期）（令和6-7年度）
- 5) （近畿支部）百石斎（田邊朔郎書斎）調査委員会（令和3-6年度）
- 6) （中国支部）中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会（令和3-7年度）

- 7) (中国支部) ジオポリマー硬化体の配調合調査研究委員会 (令和 5-6 年度)
- 8) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 9) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会 (令和 5-6 年度)
- 10) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究成果報告委員会 (令和 4-6 年度)
- 11) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和 5-6 年度)
- 12) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究専門委員会 (令和 5-7 年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針(改正)原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みの JCI 規準で制定(もしくは前回確認および改正)から 5 年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認/要改正/要 JIS 化/廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

令和 8 年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。また、(一財)日本規格協会の共同原案作成事業令和 6 年度区分 A を活用し、JIS A 0203 (コンクリート用語) の改正原案を作成する。

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会, TC71 の各分科委員会(SC) および TC71 直下の WG 等の会合に TC 議長・委員会マネジャー, SC 議長・委員会マネジャー, WG コンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明を行い, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において, 議長, 委員会マネジャー, コンビーナ, エキスパート(WG), および SC 担当委員の役割を遂行する。
 - ① TC71 (コンクリート, 鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート): 議長および委員会マネジャー
 - ② SC1 (コンクリートの試験方法): エキスパート (WG)
 - ③ SC3 (コンクリートの製造および施工): コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ④ SC4 (構造コンクリートの要求性能): エキスパート (WG)
 - ⑤ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準): コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑥ SC6 (コンクリートの新しい補強材): 議長, 委員会マネジャー, コンビーナおよびエキ

スパート (WG)

- ⑦ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, コンビーナ, エキスパート (WG)
 - ⑧ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長, 委員会マネージャー, コンビーナおよびエキスパート (WG)
 - ⑨ TC71/CAG (議長諮問グループ) : コンビーナ
 - ⑩ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート
 - ⑪ TC71/WG2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計標準) : エキスパート
 - ⑫ TC71/AHG1 (コンクリート材料の用語) コンビーナおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント (維持管理段階)
- ② 施工時, 竣工時, 管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法
- ③ 火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修 ISO/PWI 13117
- ④ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO/PWI 13315-7 (最終段階)
- ⑤ コンクリートの用語 (環境配慮型コンクリートに関する用語を含む)
- ⑥ コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量 ISO/PWI 21282-1 (通則), ISO/PWI 21282-2 (湿式分析法), ISO/PWI 21282-3 (熱分析法)

(継続)

- ① コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 及び ISO 22965-2 (改正)
- ② 構造用コンクリート設計規準の性能及び評価要求基準 (コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価) ISO 19338 (改正)
- ③ 水道用プレレストコンクリートタンクの簡易設計法 ISO 18407 (改正)
- ④ 繊維補強セメント複合材料に用いる合成短繊維の規格 ISO 13182
- ⑤ 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-1 及び ISO 10406-2 (改正)
- ⑥ コンクリート構造物の FRP 補強材 : FRP シートの仕様 ISO 18319 (改正)
- ⑦ 繊維補強セメント複合材料の試験方法—切欠き梁による荷重—変位曲線 ISO 19044 (改正)
- ⑧ コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1, ISO 16311-3 および ISO 16311-4 (改正)
- ⑨ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-2 (改正)
- ⑩ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-5 (コンクリー

ト構造物の施工)

- ⑪ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける計画・設計段階でのマネジメントに関する規格 ISO 22040-2
 - ⑫ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける建設（施工）段階でのマネジメントに関する規格 ISO 22040-3
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC195/SC1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務める。

3. 国際化事業

(1) fib

- 1) 技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
- 2) fib コンgress 2030 準備委員会を設置し、2030 年の fib コンgress 日本開催の準備を PC 工学会と共同で開始する。

(2) ACI

- 1) ACI Concrete Convention に代表委員を派遣する。
- 2) 7th JCI-ACI Joint Seminar を 2025 年に日本で実施するための講演テーマ、講演者の選定等の運営支援を行う。

(3) RILEM

RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。

(4) ACF

代表委員を派遣するとともに、ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議は、8 月 15 日～18 日にモンゴル（ウランバートル）にて開催される The 10th Conference of the Asian Concrete Federation (ACF) の期間中に予定されている。

(5) TCI

代表委員を台湾に派遣し、TCI との今後のコラボレーション活動および 4th JCI-TCI Workshop (2025 年開催予定) に関する会議を行う。

4. 受託研究事業

(1) ISO/TC71 対応国内委員会

国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。

- ・コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術に関する国際標準化 (TC71 幹事国対応業務を含む。)

(2) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会

コンクリート及び構成材料に固定化した二酸化炭素の評価に関する JIS の開発および国際標準化に向けた対応を行う。

(3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する検討

コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方の取りまとめと、利用実態を踏まえた重金属類の溶出試験のあり方を検討する。

5. 出版事業

- (1) コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'24」
- (2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2024年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」
- (3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'24」(ダウンロード版)
- (4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'25」
- (5) コンクリート工学年次論文集 第46巻2024年(DVD版)
- (6) Technical Committee Reports 2024 (JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開)
- (7) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告書
- (8) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告書
- (9) 「危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会」報告書(仮題)
- (10) 「コンクリート基本技術調査委員会 準備工WG」報告書(仮題)

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1) コンクリートの数値計算技術 | 2024年5月号 |
| 2) コンクリート分野におけるAIの活用と発展 | 2024年9月号 |
| 3) (未定) | 2025年1月号 |

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年9回掲載する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

(3) 英文ジャーナル

英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、情報コミュニケーション委員会においてJCIホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等に

より本学会の活動について広報活動を行う。

また、コンクリート女性連携促進検討委員会を設置し、コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討する。

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

温度応力に加え湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した3次元応力解析ソフト JCMAC3, 初期応力を考慮した3次元保有耐力解析ソフト JCMAC3-U, 2次元温度応力解析およびひび割れ幅解析ソフト JCMAC1・2 のサポートならびに普及を図る。令和6年度の主な活動は以下のとおりである。

- ① JCMAC1・2, JCMAC3, JCMAC3-U のバージョンアップ
 - ・ JCMAC3-U : 「2023年度版土木学会コンクリート標準示方書」対応および「ひび割れ制御指針」の次回改訂に合わせたプログラム修正
- ② JCMAC3 初級セミナー (1回) の開催
- ③ JCMAC3-U 英語版の海外への普及活動
 - ・ 台湾でのセミナーの開催 (秋頃を予定)
- ④ JCMAC3-PS の開発
 - ・ JCMAC3-U にプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョンをリリース
- ⑤ YouTube を利用した JCMAC3 Tutorial 動画の作成・公開
- ⑥ JCMAC1・2, JCMAC3 および JCMAC3-U のサポート

2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会

令和4年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図る。主な活動は以下のとおりである。

- ① 国内講習会 (名古屋, 福井, 宮崎) の実施
- ② 海外講習会 (フィリピン) の実施
- ③ 実構造物のひび割れ実態調査 (沖縄) の実施
- ④ 2022年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑤ 2022年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑥ 2022年版指針ひび割れ判定ソフト Web版に対する質問や修正指摘等への対応

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会

現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動に加え, LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成する。また, コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに, その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

(3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。主な活動は以下のとおりである。

- 1) 月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）を制作、公開する。
- 2) メールニュースを作成し配信する。
- 3) 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- 4) 過去コンテンツ（増刊コンクリート技術等）の管理を継続する。
- 5) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- 6) ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- 7) ホームページの追加リニューアル内容（英語版 HP 等）を検討する。

(4) JCI 創立 60 周年記念事業

令和 7 年 7 月に開催される JCI 創立 60 周年記念事業に向けて、実行委員会のもとに、総務部会、記念誌発行部会および特別講演部会を組織し具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。

8. 関連学会との協力活動

「(一社) 防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系 7 学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。また、令和 6 年度は、「建設系 CPD 協議会」の会長および同事務局を担当する。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2024 (松山) を 6 月 26 日 (水) ~6 月 28 日 (金) の 3 日間、アイテムえひめ (愛媛国際貿易センター) で開催する。

- 1) 第 46 回コンクリート工学講演会
- 2) 生セミナー：テーマ「どうする 5308!? これからの行方—地方から見た JIS A 5308 と人材育成—」

- 3) コンクリート構造物診断セミナー：テーマ「地方発コンクリート構造物維持管理の将来に向けて」
- 4) 特別講演会：講師 大江慎一氏（本州四国連絡高速道路）
演題 「夢の懸け橋は今！（本州四国連絡橋の構想から現在, そしてこれから）」
- 5) 見学会：2 コースを予定
- 6) 懇親会：ANA クラウンホテル松山

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2024 年度コンクリート技術講習会を 10 月～11 月にかけてオンライン（オンデマンド形式）で実施する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会」報告会
日 時：9 月
場 所：東京都内（ハイブリッド形式）
- 2) 「コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会」報告会
日 時：9 月（東京会場）
場 所：未定
日 時：9 月（大阪会場）
場 所：未定

(3) 技術委員会

技術委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート基本技術調査委員会準備工 WG」報告会
日 時：未定
場 所：未定
- 2) 「危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会」報告会
日 時：7 月 1 日（月）
場 所：本学会会議室（ハイブリッド形式）

(4) 普及委員会

普及委員会所管の講習会, セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」講習会
日 時：7 月 5 日（金）
場 所：福井市地域交流プラザ

日 時：未定（宮崎会場）

場 所：未定

日 時：未定（名古屋会場）

場 所：未定

2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：未定

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト（LECCA シリーズ）講習会

日 時：未定

場 所：未定

(5) 支部

支部主催の講演会，講習会，報告会，見学会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

1) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会

日 時：未定

場 所：未定

2) (北海道支部)「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座

日 時：未定

場 所：未定

3) (東北支部) 第 19 回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

日 時：未定

場 所：未定

4) (関東支部) 支部総会特別講演会

日 時：5 月 31 日（金）

場 所：都市センターホテル

演 題：コンクリートに関わる教育や広報について（仮題）

講 師：細田暁氏（横浜国立大学），松永昭吾氏（インフラ・ラボ）

5) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会

日 時：5 月 31 日（金）

場 所：名古屋大学 ES 総合館 1 階 ES ホール（ハイブリッド形式）

演 題：高性能繊維補強コンクリートの利用と課題

講 師：内田裕市氏（岐阜大学）

6) (中部支部) 支部総会特別講演会

日 時：令和 7 年 1 月

場 所：未定

演 題：未定

- 講 師：未定
- 7) (近畿支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月28日(火)
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 8) (近畿支部) 学生体験セミナー
日 時：8月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 9) (近畿支部) 会員向け見学会
日 時：10月頃
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 10) (中国支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月27日(月)
場 所：広島市
演 題：未定
講 師：上田隆雄氏(四国支部長・徳島大学)
- 11) (中国支部) 技術・研究交流会
日 時：11月～12月
場 所：未定
- 12) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会
日 時：12月
場 所：鳥取県
- 13) (中国支部) 「中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会」報告会
日 時：令和7年3月
場 所：未定
- 14) (四国支部) 支部総会特別講演会
日 時：4月16日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
演 題：未定
講 師：未定

- 15) (四国支部)「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告
日 時：4月16日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
演 題：中心圧縮を受ける鉄筋コンクリート供試体の実験(仮題)
講 師：未定
- 16) (四国支部)コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化に関する研究委員会成果報告会
日 時：未定
場 所：未定
- 17) (四国支部)生コンセミナー in 愛媛
日 時：未定
場 所：未定
- 18) (四国支部)コンクリート技術研修会
日 時：未定
場 所：未定
- 19) (四国支部)コンクリートに関する技術情報交換会
日 時：上期1回, 下期1回
場 所：オンライン(ライブ形式)
- 20) (四国支部)見学会
日 時：10月～11月
場 所：未定
- 21) (九州支部)支部活動報告会特別講演会
日 時：4月19日(金)
場 所：リファレンス大博多ビル
演 題：立野ダムコンクリートの創意工夫について
講 師：岩川真一氏(西松建設)
- 22) (九州支部)九州支部第6回学生シンポジウム
日 時：未定
場 所：未定
- 23) (九州支部)技術者勉強会(若手研究者の会)
日 時：未定
場 所：未定

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

(1) 論文賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。

(2) 技術賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同（技術賞）」を贈り表彰する。

(3) 作品賞

コンクリートで構成され、美的価値や技術的価値、創造性および環境との調和において、優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

(4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。

(5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

(1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生を対象にそれぞれ表彰する。

(2) 東北支部

支部表彰規程に基づき、優秀な作品や功績のあった会員を対象に表彰する。

(3) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者を対象に表彰する。

(4) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター」の認定者とする。

(5) 九州支部

九州・沖縄地区の大学，大学院，高等専門学校において，コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生，修了生に支部長賞を与える。

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月24日(日)，全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士・主任技士研修を，登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として，eラーニングにて，8月22日(木)から9月30日(月)まで実施する。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて，コンクリート技士・主任技士研修を受講し，登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また，コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて，4月5日(金)から5月20日(月)まで実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月21日(日)，全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づいて，コンクリート診断士研修を，登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として，eラーニングにて10月に実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて，コンクリート診断士研修を受講し，登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また，コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議し、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて資格審査会の開催および国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2024

コンクリート工学年次大会 2024（松山）と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

III その他

1. 名誉会員の表彰

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款および学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

4. 選挙管理委員会

代議員の任期満了に伴い、代議員選挙規則に基づき、代議員選挙を実施する。

以上